

中央大學圖書館所藏漢籍目錄

中央大學圖書館

中央大學圖書館所藏漢籍目錄

中央大學圖書館

中央大學圖書館所藏漢籍目錄



酈生陸賈列傳第三十七

史記九十七

酈生食其者

正義曰曆異幾三音也

陳留高陽人也

徐廣曰今在圍縣。索隱

曰案高陽屬陳留圍縣高陽鄉名也故耆舊傳云食其圍高陽鄉人。正義曰陳留風俗傳云高陽在雍丘西南栝地志云圍城在汴州雍丘縣西南八里謂此也好讀書家貧落

魄無以為衣食業

應劭曰落魄志行衰惡之貌晉灼曰落魄薄落託義同。索隱曰案鄭氏云

為里監門吏

正義曰監甲衫反戰國策云王蠋對齊宣王曰夫監門間里士之賤也

然縣中賢豪不敢役縣中皆謂之狂生及陳勝項梁等

起諸將徇地

正義曰徇畧也

過高陽者數十人酈生問其將皆

握齟

應劭曰握齟急促之貌。索隱曰。劭云齟音苦促。鄒氏音鹿角反韋昭云握齟小節也好苛

禮索隱曰案苛亦作荷賈逵云苛頰也小顏云苛細也

自用不能聽大度之言酈

西山先生真文忠公讀書記

甲集

書湯誥曰惟皇上帝降衷于下民若有恒

性克綏厥猷惟后

此成湯誥萬邦之詞。孔氏曰皇大也衷善也順人有常之性能安

立其道則惟在於君唐孔氏曰天生蒸民與之五常之性使有仁義禮智信是天降善於民也。程子曰以形體謂之天以主宰謂之帝。朱子曰自天而言謂之降衷自人受此衷而言則謂之性其要在降字上猷即道道者性之發用處又曰衷字只是無過不及之中是恰好底道理天生人物各有一副常恰好底道理降與爾與程子所謂天然自有之中劉子所謂民受天地之中相似昔人云衷善也却未親切。林氏曰天能降衷于民不能使民保其常性而勿失故為之君而付之以教命之任師曠曰天生民而立之君使司牧之勿使失性者謂勿使其所降之衷也民既有降衷之性至於順其固有之性以安其所謂道者是乃君之事故曰云云湯欲言桀之暴虐夫民以亡天下則以此言為先蓋推本上天所為立君又民之意與神德之



五倫書卷之一

五倫總論

易。父子兄弟夫婦。而家道正。正

家而天下定矣。○有天地然後有萬物。有萬

物然後有男女。有男女然後有夫婦。有夫婦

然後有父子。有父子然後有君臣。有君臣然

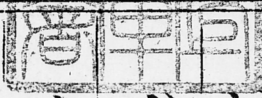
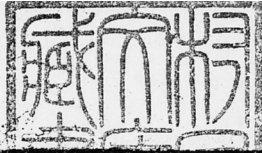
後有上下。有上下然後禮義有所錯。

書。敬敷五教在寬。○后克艱厥后。臣克艱厥臣。

政乃乂。黎民敏德。○天敘有典。勅我五典。五

150.22
9767
中央大學圖書館

庫文上村
29



重刊補註洗冤錄集證卷一

武林王又槐蔭庭氏增輯 山陰李觀瀾虛舟氏補輯

及山孫光烈臨川氏參閱 會稽阮其新春畝氏補註

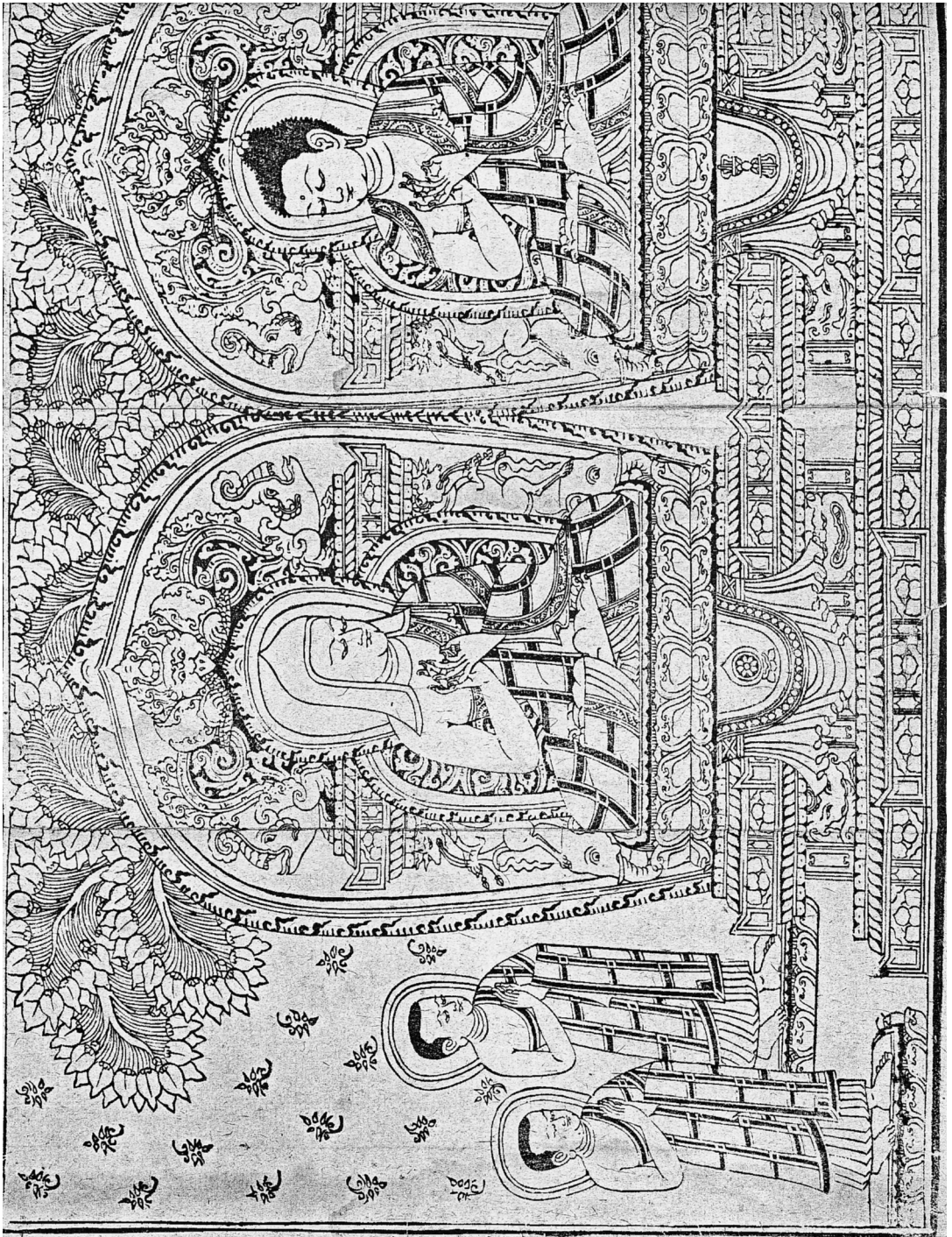
武林王又梧鳳偕氏校訂 元和張錫蕃鶴生氏重訂加丹

檢驗總論

事莫重於人命。罪莫大於死刑。殺人者抵法固無恕。施刑失當。心則難安。故成招定獄。全憑屍傷。檢驗為真。傷真招服。一死一抵。俾知法者畏法。民鮮過犯。保全生命必多。倘檢驗不真。死者之冤未雪。生者之冤又成。因一命而殺兩命。數

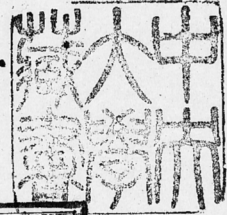
此章專論檢驗未死以前既死以後切之屍應檢之屍分為四項

古人俱稱檢驗今以驗屍為相驗拆蒸為檢驗驗傷及保辜總論云關礙重傷即時親行身死之日照狀檢驗與此互相發明



開元釋教目錄卷第十一別錄 昇一
 庚午歲西崇福寺沙門智昇撰
 別分乘藏錄下

類	17	1000	冊	12	2065
號					
				03	48



弘齋全書卷

審理錄

丙申

洪忠道唐津縣石瓮戾獄

毆打鄭翁男第八日致死實因被打

不無惟輕之典刑曹回達亦有參怒之道

槐山郡婢貴暹獄

都京踏申

朔兒道第八日致死初檢合有參怒刑曹回達當初成

獄實非審慎初覆檢官推考貴暹酌處

令曰瓮戾李官議讞甚是減死定配婢貴暹之參酌

處分依申目施行貴暹之當初成獄殊欠審慎之道

其時道臣從重推考

弘齋全書卷

審理錄



『中央大學圖書館所藏漢籍目錄』

序

この度、中央大学図書館漢籍所藏調査班による長年にわたる研鑽と調査の成果として『中央大學圖書館所藏漢籍目錄』が刊行の運びに至ったことはまことに意義深い事です。

中央大学は明治十八年の建学以来、実学の尊重をモットーとして掲げて来た校風も手伝い、漢籍、古典籍の貴重書、稀覯本の類の計画的購入や収書に関して従来必ずしも熱心であつたとは申せません。加えて二度の火災に遭い、また大戦の戦火をも潜つて来ました。それでも創設者、教員、学員の御厚志による度々の寄贈を受けて、徐々にその蔵書の点数を蓄積してまいりました。

古典籍がわが国固有の欠くべからざる文化遺産であることは言うを俟ちませんが、漢籍もまた上代より現代に至るまで、われわれ日本人の精神的骨格を形作つて来た貴重な文化財です。にもかかわらず、戦後の数十年間、漢籍や古典籍への関心は一般的に低調であつたと言わざるをえません。漸く昭和五十年代頃からこの風潮に反省が加えられ、有限な文化財としての漢籍・古典籍の保存と利用が真剣に意識され検討されるに至りました。

漢籍が有効利用されるための前提として、まずその書誌・目錄の十全な整備がなされなければなりません。一般圖書の分類方法とは全く異なる、中国清朝以来の四部分類と呼ばれる伝統的な独自の方法が採用されており、目錄作成に際しては漢籍についての専門的な素養と作業上の経験的な技能が必要とされます。この点につきまして、漢籍研究会会員の有志の長年のご協力は大変有難く、それ無しには本書の刊行も実現しなかつたでありましょう。

漢籍所藏調査班は、一九九四年以来、主として夏期休暇中の数日を漢籍の調査と研修に充てて弛まぬ努力を積み上げてきました。特に二〇〇一年以降は、毎月一回、高橋良政日本大学法学部教授を中心として、近在大学の図書館員有志が参集し、定期的に調査研究会を持ち、作業の一層の促進を図ってきました。そして二〇〇四年に至つて調査用紙の記入を完了し、刊行にまで漕ぎ着けました。

このように資料の調査と目録作製の作業は十二年の長きにわたりましたが、その間、漢籍研究会会員の有志、中央大学図書館職員の方から淑らぬ温かい協力と貴重な助言を賜りました。また、一九九九年の夏期調査研修会には、鈴木俊幸文学部教授をはじめ国文学研究科大学院生、文学部学生諸君らの多くの人々の参加を得、数々の支援と激励をいただきました。

ここに『中央大学図書館所蔵漢籍目録』が公刊されることにより、専門研究者にとって飛躍的に利用の便宜が図られるばかりではなく、広く一般読書人の漢籍文化への関心が大いに高められることを願ってやみません。

二〇〇六年三月三十一日

中央大学図書館長

古城 利明

中央大學圖書館所藏漢籍目錄 凡例

- 1 この目録は中央大學圖書館に所藏されている漢籍目録である。また附録として準漢籍、佛書、韓書を収めた。総點數は一〇三點。

その内譯は、漢籍の總點數六八五點で、經部は一四二點、史部は二四六點、子部は一七六點、集部は一一五點、叢書部六點。そして準漢籍は一〇二點、佛書は二五八點、韓書は一五八點である。
- 2 中國人が古典語で著述・編集した書籍を漢籍とした。この目録には辛亥革命頃までに刊行され裝訂が綫裝になっている書物を中心に収録した。
- 3 この漢籍に日本人が訓點を加えたり、頭注を附けたりして、日本で翻刻した書籍、つまり和刻本は当然ながら漢籍とした。
- 4 日本人による漢籍の注釋・翻譯などはもとより國書であるが、利用者の便宜、藏書構成から準漢籍(漢籍に準ずるもの)として、この目録では漢籍と合わせて収録し、漢籍篇の附録とした。
- 5 舊學に屬する漢籍は四部分類法(主に「京都大學人文科學研究所漢籍分類目録」を参照)に依據した。和刻本については、長澤規矩也氏の「和刻本漢籍分類目録」を参照し、刊・印・修の區別にも意を拂った。佛書及び韓書は請求記號順に排列した。
- 6 同類同屬の排列順は、ほぼ編著者の時代順によった。
- 7 叢刻・叢書に屬する書物については、書名のみを列舉した。索引には叢刻・叢書に屬する書物の書名を分出して採録することをしなかつた。
- 8 目録本文の著録についてはおおよそ次のような規則に従って表記した。
- 9 目録本文については、書名・卷數・編著者・出版事項・外寸・印記・版式、欄外に請求記號・冊數・舊文庫舊藏者名略稱の順で表示した。
- 10 書名は本文卷首(本文の始まる所)の首行の書名を正式書名とした。叢書、叢刻の書名は、目録書名、封面などを参照して決め

た。闕卷のある場合は欠けている巻を表示した。

ハ 編著者名は、始めに括弧の中に王朝名を示し、それに續けて本姓、諱を示し、名前の後に撰(著作)、輯(編集)、注(注釋)、校(校訂)、訓點、首書 など著述者の役割を示した。本名が不明の時は闕名とした。

二 出版事項は、いつ・どこの誰が・どのような印刷形態で出版したかを示した。印刷形態としては、刻本(木版印刷)、木活字印本、銅版印本、石印本、などの表記で示した。書寫したテキストは鈔本の表示で統一し、書寫狀況を觀察して細かい區別や表示をしなかった。現物を精査することや参考書を参照して出来るだけ刊・印・修を區別するように努力した。

ホ 冊数は現状のままの数で示した。

冊數に續けて舊文庫名・舊藏者名の略稱を附載した。

岡野……岡野文庫 如是閑……長谷川如是閑舊藏書

桑田……桑田文庫 御橋……御橋惠言舊藏書

末松……末松文庫 山田……山田喜之助舊藏書

花井……花井文庫 渡部……渡部學先生寄贈朝鮮の民間流布初學入門書

春木……春木文庫 同窓會……朝鮮同窓會寄贈書

増島……増島文庫

村上……村上文庫

泉二……泉二文庫

請求記號は圖書館で用いている記號を踏襲し出納の便を圖った。

へ 分類については、漢籍は四部分類(經部・史部・子部・集部)を採用し、叢書部を加えた。各部の點數を勘案して、類以下の細かい分類はしなかった。

ト 索引については、冠稱を省いた書名を基に、五十音順に排列した。叢書の子目は索引に載せなかった。

中央大學圖書館所藏漢籍目錄 目次

口繪圖版

序

凡例

目次

漢籍篇

經部……………

(一頁)

史部……………

(二四頁)

子部……………

(五八頁)

集部……………

(八四頁)

叢書部……………

(一〇〇頁)

附錄

準漢籍……………

(二〇七頁)

佛書……………

(二二三頁)

韓書……………

(二五七頁)

口繪圖版解說

(二七三頁)

跋

索引……………

(一頁)